

優秀賞

## ドーチカマラソン

秀谷 春弥(ペンネーム)様

「俺はドーチカマラソンで優勝したからな」テレビでマラソン中継があると、夫は必ず胸を張る。昭和59年。妊娠中の私を東京に残し、夫は大阪に単身赴任した。ある日、予定より早く産気づいたと連絡すると、焦った夫は東京に戻ると言い始めた。地下鉄に乗れば早いのに、動転した夫は梅田目指して走りだしたという。窓の外は大ぶりの雨。土佐堀の会社から肥後橋、渡辺橋と走り、傘を放り投げてドーチカに飛び込み、血相変えて地下街を疾走する若い男。「どないしたん」とほうほうから声をかけられ、その都度、夫は「子供が生まれる!」と叫び、周囲は「ほんまか!」「はよせえや」と道を譲ってくれたそうだ。

あたたかい声援と誘導で、駅まで完走した夫は新幹線に飛び乗り、娘が生まれる瞬間に奇跡的に間に合った。あの日のドーチカは新しい命と未来に続く道だったのだ。どうかこれからも誰かの未来につながる場所であってほしい。50年おめでとうございます。